



国史跡 元箱根石仏群 石仏・石塔めぐり

元箱根石仏群は、史跡全体が「国史跡」に指定されています。また、一部の石造物は個々に「国重要文化財」に指定されています。

※精進池西側（図の池の上側）の遊歩道は、現在通行止めです。

精進池（しょうじがいけ） 西側遊歩道

精進池を周遊できる歩道です。晴れた日には池越しに六道地蔵や二子山が綺麗にみえます。また、高原の草花を楽しむことができます。

精進池西岸から六道地蔵、二子山を望む



編集発行：箱根町教育委員会生涯学習課文化財係
発行日：令和5年(2023)10月1日(改訂版)

56二十五菩薩（にじゅうごぼさつ） 国重要文化財 元箱根磨崖仏・阿弥陀如来立像、 供養菩薩立像及び地蔵菩薩立像二十四軀 永仁元年(1293)～

国道の両側の大きな岩盤に、小さな仏像がいくつも彫られています。その内訳は、地蔵菩薩が24体、供養菩薩が1体、阿弥陀如来が1体の計26体です。像の造りの違いから、おそらく一度にできたのではなく、順次奉納されたと考えられます。

本来の「二十五菩薩」とは、意味合いが違いますが、像の数から二十五菩薩になぞらえて呼ばれるようになったのでしょうか。



1八百比丘尼の墓（やおびくにはのか） 造立年：観応元年（1350）

④の多田満仲の墓と同じ宝篋印塔ですが、すべての部材がそろっていません。室町時代前期の造立で、他の石造物よりも若干時代が新しいことがわかります。

「八百比丘尼」とは、八百歳の長寿を得た伝説上の女性のことで、諸国を巡り歩いたことから全国各地に言い伝えがあります。



2応長地蔵（おうちょうじぞう） 国重要文化財 元箱根磨崖仏・地蔵菩薩立像 造立年：応長元年（1311）

地蔵菩薩3体を刻んだ磨崖仏です。銘によれば、60名もの信者により造立されたことがわかります。

一名「火焚き地蔵」とも呼ばれ、戦前まで箱根の宮城野地域の人びとが新盆のときに、この地蔵の前で盆の送り火を焚いたことに由来するそうです。



3六道地蔵（ろくどうじぞう） 国重要文化財 元箱根磨崖仏・地蔵菩薩坐像 造立年：正安二年（1300）

元箱根石仏群のシンボルともいえる、地蔵菩薩坐像で、大きな岩に像が浮彫りにされた磨崖仏です。

蓮華座を除く像高が3.15mあり、磨崖仏の地蔵菩薩坐像としては、国内最大級です。

毎朝六道地蔵にお参りくる地元の方によれば、地蔵から5mくらい離れた場所に立つと、地蔵と目線が合うそうです。

4多田満仲の墓（ただみつなかのはか） 国重要文化財 石造宝篋印塔 造立年：正安二年（1300）

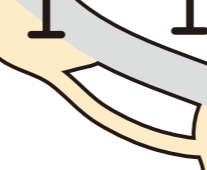
正安二年の銘をもち、銘のある塔としては関東では現存する最古のものです。高さは約3メートル（後補である相輪を除く）あります。

多田満仲は、平安時代に活躍したの源氏の祖先です。

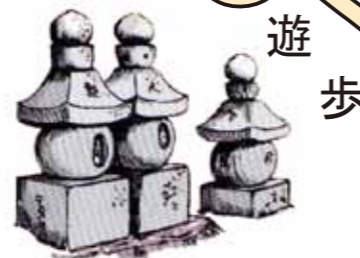
二十五菩薩（西側）



曾我兄弟の墓



二十五菩薩（東側）



7曾我兄弟・虎御前の墓 （そがきょうだい・とらごぜんのはか）

国重要文化財 石造五輪塔 造立年：永仁三年（1295=虎御前の墓）

石仏群の北端、国道1号沿いに、高さ約25mの石造の五輪塔が3基並んでいます。向かって左の2基は「曾我兄弟の墓」、右側の1基は「虎御前の墓」と呼ばれています。これらは、仇討ち話の「曾我物語」に由来する俗称です。

硬い安山岩を加工する技術が東日本に伝えられた初期の石造物で、いずれも形がよく整い、鎌倉時代の代表的な五輪塔として、国の重要文化財に指定されています。

国道1号最高地点
標高874m

薬師堂「東光庵」と
熊野権現
箱根町史跡 東光庵熊野権現旧跡



芦之湯温泉

芦之湯
三碑

東芦の湯

国道1号↓
至小涌谷・湯本